



狂犬病について

狂犬病は、狂犬病ウイルスによる人畜共通感染症で神経系を侵し、発病するとほぼ100%死亡する恐ろしい病気です。狂犬病に感染した動物（犬、猫、スカンク、アライグマ、コウモリ等）に噛まれて感染が occurs。発症すると頭痛、精神不安などの症状に続き、呼吸困難や嚥下困難が occurs。重症になると水の嚥下ができなくなり単に水を見ただけでも全身の痙攣をおこし（恐水病）、呼吸麻痺や心停止などで死に至ります。

流行状況は？

世界で毎年5万人以上の方が狂犬病で死亡しています。特にインド、バングラデシュ、中国、フィリピンなどアジアでの流行が世界の90%以上を占めています。世界で狂犬病の流行していない国としては、日本、オーストラリア、イギリス、北欧などごく限られた地域だけです。

予防方法は？

狂犬病は予防接種をせずに万一、感染の機会があった場合、直ちに傷口を洗浄し、ワクチンの5回接種を開始し完了することで発病を阻止することが可能です。

流行地域で犬などに噛まれやすい仕事（獣医師、動物保護の仕事）や戸外での職業に就く人、都市部の医療機関から遠く離れた地域で活動する人、あるいは子供等は予防接種を勧めます。ワクチンを1週間間隔で2回接種、1か月後に3回目を接種します。3回接種後は2年間程度効果が持続します。但し事前に3回のワクチン接種を行っていても、狂犬病の動物から咬まれた場合は傷口の処置と、さらに2回の追加接種が必要になります。

